

## B—46 和服における裾切れの研究

—裾心，八掛布および長じゅばん地との  
関連性について—

四天王寺学園女短大 ○桜井 礼子  
長野 宏子  
大川原千鶴

1. 和服を袷仕立にする際，裾の形を調えるため裾心を入れる場合が多い。その心に用いられる材料と八掛布の種類によって，裾切れの程度も変わってくるものと思われる。また，和服の場合，その下に着用する長じゅばん地とのまさつも，裾切れに影響してくるものと考え，

市販の八掛地4種類，心地4種類，および長じゅばん地として4種類をとり，種々の組合せにより摩擦強度を測定した。

2. 試料は八掛地として 1. 重日本絹 2. 軽日本絹 3. ポリエステル100% 4. モスリンの4種とし，心は 1. ナイス 2. モスリン 3. 木綿わた 4. まわたの4種類，長じゅばん地としては 1. 軽日本絹 2. モスリン 3. ナイス 4. ポリエステルの4種をとった。八掛布の試料を15×4.5cmにとり，その中央部に心を取りつけ絹糸で押え22×2.5cmの木綿台布に両端を縫つけ，学振型の摩擦試験機にとりつける。摩擦布（長じゅばん地）は，7×2.5cmにとり，500gの荷重をかけ，3000回摩擦を行なう。摩擦した試料を広げて，ショッパー型抗張力試験機にかけ強度を測定し分散分析を行なった。

3. 実験の結果，心地の種類による強度差には大きな変化はなく，八掛布と長じゅばん地との間にはかなり変化が見られる。長じゅばん地にモスリンを用い，八掛布に絹を用いた場合の強度の低下は非常に大きい。